

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 22 日作成)

委員会名	建築一体化空調 WG	主 査 名：石野 久彌
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (建築設備小委員会)	委員長名：銚井 修一
設 置 期 間	2003 年 10 月 ~ 2005 年 9 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	(2003、2004 年度) 各種の建築一体化空調の実施例、実測例、シミュレーション法などを収集整理し、設計法を確立する上での問題点、設計法あるいは設計指針提案のための方針を決める。(2005 年度) 主要な建築一体化空調について設計法あるいは設計指針を提案する。成果をまとめてシンポジウムを開く	
委員構成 (委員名(所属))	石野久彌(東京都立大)、郡公子(宇都宮大)、羽山広文(北海道大)、猪岡達夫(中部大)、宇田川光弘(工学院大)、川瀬貴晴(千葉大)、近藤靖史(武蔵工業大)、下正純(竹中工務店)、長井達夫(大阪市立大)、丹羽勝巳(日建設計)、丸山純(松田平田設計)、柳井崇(日本設計)、柳宇(国立保険医療科学院)、吉牟田圭一(日比谷総合設備)、龍有二(北九州市立大)	
設置 WG (WG 名: 目的)		
2003 年度予算	80,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	第 1 回 10 月 30 日・11 名、第 2 回 12 月 2 日・11 名 第 3 回 1 月 19 日・10 名、第 4 回 3 月 23 日
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) WG 設置から半年間での成果は次の通りである。</p> <p>1) 主要な建築一体化空調システムの事例研究 躯体蓄熱空調システム、床吹出空調システム、座席吹出空調システム、汗かき建築、クール・ヒートチューブ、ダブルスキンなどの建築一体化空調の設計事例、研究事例を収集して検討を行った。今後設計法・設計指針の提案のための基礎となるものとして、システムの性能の特徴、設計法の現状と課題を整理した。</p> <p>2) 建築設備授業の実施例研究 大学での今後の建築設備授業のあるべき姿を探るための基礎として、授業の実施例をいくつか検討した。</p> <p>3) WG ホームページ開設と成果公表 WG のホームページを開設し、WG 議事録及び審議資料の公表を行った。</p> <p>委員会 HP アドレス: http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s10/</p>
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 半年間に 4 回の WG を開催し、当初の計画通りに建築一体化空調の実施例、研究例を収集し特徴・現状・課題を明確にして、委員の認識、問題意識を統一しつつある。また、建築設備授業の新たな展開のための基礎情報を収集した。目標の達成度は 80% 程度である。
その他評価すべき事項	WG での建築一体化空調に関する審議資料の大部分をホームページに掲載し公開した。これにより、建築実務者や研究者、学生が建築一体化空調を知るための有益な情報源を提供できた。